

おもしろい本 みつけた！

《中学生・高校生》



1年の間に図書館に入った本を中心に、幅広く
おもしろい本を紹介します。

★ホームページにものっています。
気になる本をみつけたら、
さっそく探してみよう！



茨木市立図書館
おすすめ本のページ



フーツム
（日本の小説）

2018年6月

『ディス・イズ・ザ・デイ』

津村 記久子 作

（朝日新聞出版）

サッカー2部リーグ、22チームの運命が決まる最終試合の日、
スタジアムには様々なファンが集います。

久々に試合に足を運ぶようになった大学生、見ると負けるかも
と思いながらも飛行機に乗ってしまったライター、チームと選手
どちらを応援するかで弟とすれ違ってしまった会社員…ごく普通
の人たちが、それぞれの思いを抱きながら見守る「その日」。

サッカーに出会って、いい時ばかりではないけれど、それでも
かけがえのない時間を重ねてゆくファンたちの、喜びや悲しみ、
楽しさが伝わってきます。サッカーをよく知らなくても、一緒に
座って試合を見たくなくなる連作短編集です。



茨木市立図書館



ニーニシ
(日本の小説)

2019年7月

『12歳で死んだあの孩子是』

西田 俊也 作

(徳間書店)

小学校6年生の卒業間近に、クラスメイトが病気で、突然亡くなってしまいました。

中学2年生になった主人公は同窓会をきっかけに、死んだ鈴木君のことを思い出し、他のクラスメイトに声をかけてお墓参りの企画をたてます。12歳までしか生きられなかった友、一緒にいても相手のことをわかっていなかった自分、同じ時間を過ごしたクラスメイトも、それぞれに感じ方の違いがありました。

自分ならどんな気持ちになるだろう、周りの人の気持ちはどうなんだろうと考えるきっかけになる、作者の体験をもとに書かれた小説です。



K911
(詩歌)

2019年4月

『ぼくがゆびをばちんとならして、きみがおとなになるまえの詩集』

斉藤 倫 作

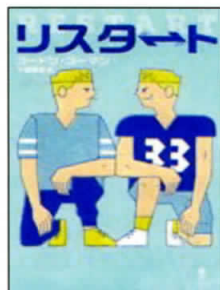
高野 文子 絵

(福音館書店)

大人の「ぼく」が子どもの「きみ」にさまざまな詩を紹介しながら、言葉のおもしろさについて会話をしていく形式で書かれています。ぼくがご飯を食べようとしていると、そんなことお構いなしにきみがやってきて「せんせいが、おまえは本を読めていうんだ。ことばがなっていないから。」と言いました。そんなきみに対して、ぼくが紹介した詩は…。

教科書に書いてあるような正しい言葉でなくてもいい、でたらめな文章でもいい。読んで意味が分からなくても、感想がうまく言えなくてもかまわない。詩はただ楽しめばいい。

詩を通して、言葉の自由さを感じることができる1冊です。



セーコマ
(世界の小説)

2019年7月

『リスタート』

ゴードン・コーマン 作

(あすなろ書房)

千葉 茂樹 訳

屋根から落ちて記憶喪失になったチェースは、自分がアメフトのスター選手だったことを知ります。学校に行くとチームのメンバーは歓迎しますが、他の生徒たちは目をそらしました。アメフトに当分復帰できず、ビデオクラブに参加しましたが、そこにいたのは彼にいじめられていた被害者達でした。

チェースは、彼を激しく恨む被害者の家族や、彼をいじめっ子仲間に戻したい友達、罰として与えられた奉仕活動先の老人に関わりながら、少しずつ記憶を取り戻していきます。過去の自分を許せず葛藤する少年が、リスタートに挑む物語です。



Fーナカ
(日本の小説)

2019年8月

『地獄の沙汰もメシ次第』

中村 颯希 作

(双葉社)

主人公のみのりは、事故で亡くなってしまった養父と共に、何故か地獄に墮とされてしまいます。

納得がいけないので、地獄の亡者たちと一緒に決定を覆そうとして、料理は全くできないけれど、養父のレシピを元に閻魔たちの胃袋をつかもうと奮闘するのですが…。

死後の世界で活動するみのりの姿にホロっと涙したり、クスクスと笑えたりするお話です。

地獄で出会う者たちのバックグラウンドは、現代の社会問題に繋がるもので、読んだ後には考えさせられます。



2102-19
(原始時代)

2019年6月

『知られざる弥生ライフ』

こんだ 亜紀子 作

(誠文堂新光社)

弥生時代とは、実に1300年もの歴史がある時代です。

この本は、研究から見てきた弥生の姿を柔らかなイラストとともに、難しいことは抜きにしてざっくりと知るための入門書です。

ページをめくると、いままでのイメージとはまったく違う弥生時代を知ることができます。いろいろな便利グッズや住居事情、初めての国際交流などなど。たくさんの想像も交えながら、その暮らしを見に行きましょう！稲作だけじゃないですよ！



457-19
(古生物学)

2019年6月

『恐竜まみれ 発掘現場は今日も命がけ』

小林 快次 作

(新潮社)

日本で初めて恐竜の「全身骨格」を掘り出した恐竜界のカリスマ学者、ダイナソー小林こと、小林快次さんの探検記です。

未知の恐竜化石を求め、1年の3分の1は発掘調査に出かけています。ゴビ砂漠の灼熱、想像を絶する大濁流、絶体絶命のアラスカのヘリ…最終日の大発見を信じて歩きに歩く砂まみれ、汗だらけ、命がけの日々です。

その情熱を掻き立てるのは、恐竜がサイエンスの面白さを伝える重要な力を持っている、という強い思いです。熱い学者の言葉を通じて、恐竜が発信している身震いするようなメッセージに触れることができる1冊です。



210-18
(日本史)

2018年11月

『信長もビックリ!?科学でツッコむ日本の歴史』

平林 純 作

(集英社)

歴史にはロマンがあふれています。それは伝説や空想の部分が多少なりとも含まれているからです。

この本は、宮本武蔵と佐々木小次郎の「^{がんりゅうしま}厳流島の戦い」や豊臣秀吉の「^{ちゅうごくおどろ}中国大返し」などの歴史上の出来事を、科学の視点で解説しています。カッコいい忍者の忍術や、みんなが知っている有名なエピソードが本当は実現不可能だった!?と驚くかもしれません。

読み終わった後にはきっと、その時代を懸命に生きた人々が身近に感じられるようになるでしょう。



F-ハタ
(日本の小説)

2018年7月

『水槽の中』

焔野 智美 作

(KADOKAWA)

海の近くの高校に通う2年生の^{はるか}遥は、話したことの^{あこが}ない憧れの先輩を眺めて盛り上がるという平凡な日々^なに満足していました。そんな中、同じクラスの考古学部の男子、アルトの事が気になりはじめます。もしかして、これは恋なのだろうか。恋とは言い切れない気持ちを持って余しているうちに、アルトは他の女の子と付き合い始めて…。

遥、マーリン、バンちゃん、アルトの同級生と一緒に過ごした17歳の一年間の物語。高校生の友情・恋・進路の悩みが等身大の姿で描かれている青春小説です。

★「読みたいな」と思った本の予約・問い合わせは、下の図書館までお願いします。

中央図書館	☎627-4129	畑田町1番51号
中条図書館	☎622-2476	東中条町2番13号
水尾図書館	☎637-4416	水尾三丁目3番18号
庄栄図書館	☎620-1171	庄二丁目26番12号
穂積図書館	☎620-1056	松ヶ本町8番30号 イオンモール茨木内

編集・発行：茨木市立図書館

発行日：令和2年(2020年)3月

*本の表紙は出版社の許諾を得て掲載しています。

リサイクル適性(A)
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

PRINTED WITH
SOY INK

この印刷物は、10,000部作成し1部あたりの単価は7.85円です。